

「Thinkサイクリング山口」設立趣意書

謹啓 皆様におかれましては未曾有の災禍にありましてもますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素から自転車のある生活に関心を寄せて頂き当事者の一員として御礼申し上げます。

その移動や趣味の道具、「自転車」に乗って使うことを表す「サイクリング」に相当する日本語をご存じではないでしょうか？因みに国際自転車競技連盟／UCIのルールブックには「サイクリングとは、レースを含むスポーツサイクリング全般」とあります。

工業製品としての「自転車」はもちろん、「自転車走行空間」、「自転車利活用」、「自転車乗操心得」など、ハード、インフラ、ソフト、ハートの4要素や、歩道走行問題再燃時に「自転車には、歩行的利用と自動車の利用の二面性がある」と警察見解が出されたように、「サイクリング」の概念の修正は無理でも、以下のような多様性の中の二面性は共通認識化する必要があると思います。

- ◆多様性の中の二面性 ◎ハード：自転車 // 軽車両 ⇔ スポーツ機材
- ◎インフラ：走行空間 // 一般道 ⇔ 専用道
- ◎ソフト：利活用 // 日常利用 ⇔ スポーツ利用
- ◎ハート：乗操心得 // 自転車市民権 ⇔ 自転車多様性

それは、自動車より小回りが効き、歩くより広範囲に移動できる「自転車」の利活用を考える際、『日本の自転車走行環境の実情』が浮上し、議論が先に進まない場面が多々あるからです。その『日本の実情』は、定まらないインフラ整備、手付かずのソフトの標準化、他人任せのハートの啓蒙活動など、第一次サイクリングブームから潜在する「サイクリングの曖昧な法的根拠」という課題に、コロナ禍で再認識させられたハードの供給体制の空洞化も含んだものです。

つきましては多様性の中の二面性を踏まえて、「自転車のある生活」に多角的に取り組む地域貢献型の団体を新たに立ち上げたいと考えており、また先の見えない状況で互いに支えあう必要性も痛感しており、是非とも当団体の設立趣旨に、ご理解、ご賛同を頂き、後援や情報提供等、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

令和四年二月吉日

Thinkサイクリング山口発起人一同

団体設立概要

- 一、団体概要／目的、組織、事業（連絡先／発起人）
- 二、工程表と補足
- 三、資料／山口きらめき財団前回申請書抜粋
資料／廃校再生サミット山口説明会資料抜粋
資料／ロードマップ案拡大版

<Thinkサイクリング山口>

●目的／子供の玩具、最も身近な市民の足、第一回近代オリンピック正式種目、そして世界一周の相棒、等々、多様楽しめる「自転車」は、走行空間の整備、利活用方法の提案、乗車や操作や心得の習得も欠かせません。しかし自転車利活用環境の課題は、昭和から平成・令和と時代が進んだ今も『日本の実情』として変わらず潜在し、「サイクリング」の法的根拠も曖昧なままです。その自転車利活用環境を、ハード・インフラ・ソフト・ハートの4要素で考える、ユーザー+ショップ+地域が三位一体となった、“地域貢献型マルチサイクリングクラブ”として当会は、「情報発信」「人材交流」「提案型ソフト」を三本柱に、日常利用とスポーツ利用の架け橋となり、一般道の自由使用の範囲の拡大に繋がる、自転車市民権の獲得と自転車多様性の共通認識化を、「先行山口」として目指します。

●組織・活動／目的の達成のため、下記の組織を有し、必要に応じて、イベント情報誌の発行や、提案型イベント等を行います。

◎理事会／代表理事1名、副代表1～2名、事務局4～10名、分科会5～10名、顧問3～5名
⇒情報誌編集に合わせて理事会を行う。

◎事務局／総務、広報渉外企画編集（西部、県央、東部）、会計
⇒主に三本柱の『情報発信』を担当。

◎分科会／交流1（ソフト&ハート）、交流2（ハード&インフラ）、事業（セルフ・市民権・多様性・ライセンス・他）
⇒三本柱の『人材交流』と『提案型ソフト』を担当。

○外部連携／自転車多様性に対応するための『人材交流』と『提案型ソフト』では、法的根拠が曖昧なものや一般道の目的外使用や特殊ジャンルの方が多いため、外部組織との連携を図る。

⇒『提案型ソフト』は玉石混淆とも言えるソフトの見極めが必要。一般道では、組織的サイクリングや山道走行が対象で、サイクリング大会やロードレースもこれに含まれる。また専用施設等の特殊ジャンルでは、スクールから競技会まで幅広く対応する。さらに地域貢献と広域連携の守備範囲を考えながら、必要に応じて自転車以外のスポーツや、他の道路利用者との連携も視野に入れる。

※自由使用と目的外使用と地域貢献：一般道の自由使用の範囲で自転車のある生活を考える「Think Cycling」。道の種類や道の目的外使用も意識して自転車の可能性を考える「Think VTT」。そして自転車速度で移動しながら地域の文化や自然を見つめ直す「Think Zapping」。理想はツーリングからレースまで企画運営出来る自転車スーパー先達が所属する「地域貢献型マルチサイクリングクラブ」が、それらをバランス良く担うことだが、『日本の実情』ではそれが難しい。そこで個人や輪界や行政など、自転車利活用の立場を超えた『サイクリングネットワーク再構築』を改めて訴えたい。

※上記の「Cycling」は、UCIの定義「サイクリングとはレースを含むスポーツサイクリング全般」と、日本人のイメージ「のんびりサイクリング」を比較し、日本の実情を俯瞰したもので、「Think Cycling」として当会が取り組む。

※上記の「VTT」は、フランス語のMTBにあたる全地形型の自転車「Vélo tout-terrain」を、地球の全てを遊ぶ自転車「Vélo pour tout jouer sur terre」と拡大解釈したもの。また「Zapping」は、デンマークの関係者が用いた、自転車と他の移動手段との相互利活用を表す言葉。「Think VTT」は当会で扱いにくい自転車利活用を、「Think Zapping」は、自転車を越えた移動手段全体を、そして三つの「Think」を合わせて「Velo Multi Maintenance」としたい。

<問い合わせ・連絡先>

発起人代表：弘重公朗／〒742-0021 柳井市天神並木通りCSヒロシゲ 0820-22-0645

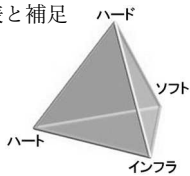
事務局担当：國安博之／〒753-0214 山口市大内御堀 4044-8 博友舎 083-927-7922

分科会担当：石丸英明／〒740-0036 岩国市藤生町 1-30-6 コースクリエイト山口 090-3170-6658

Fax 03-6368-4661 URL <http://www.bike-joy.com/TCYc.htm> E-mail bikejoyq@mbr.nifty.com

◎発起人候補（順不同）／弘重公朗（柳井市）、志賀孝治（山口市）、福永一生（岩国市）、棟久明博（山口市）、松岡稔（美祿市）、内富哲男（下松市）、常原圭介（柳井市）、石丸英明（岩国市）、井上桂（下関市）、明日香健輔（山口市）、國安博之（山口市）、為近光夫（宇部市）、光永尚弘（山口市）、三明由嗣（山口市）、市川雅浩（下松市）、村中淳夫（岩国市）、永田昌秀（長門市）

二、行程表と補足



テラバランスの追求 ⇒ 「軽車両とスポーツギア」/「一般道と専用道」/「日常利用とスポーツ利用」/「市民権と多様性」

<<自転車市民権と自転車多様性を考える>>

二年跨ぎの提案型ソフト/共有・模索・蓄積



ユーザー+ショップ+地域、三位一体型サイクリングクラブの交流で自転車のある生活を考える！

LCMCC先行山口 / Thinkサイクリング山口 / 春需で発信、秋需で交流

フリーペーパー / 学習トレジャーハント / コマ地図ブルベ

春需で情報発信/収集・分析

ロードマップ案

秋需で人材交流/発掘・育成

2022/02/22/16:07

	2022年	2023年	2024年	2025年
1月	発起人への呼び掛け(趣意書/ポジショニング/ロードマップ)	情報集約 春号編集 店頭配布	情報集約 春号編集 店頭配布	
2月	きらめき財団説明会(コロナ禍中止) ⇒申請資料(規約、事業計画、役員名簿、フリーペーパー番号、他) 設立予定日(設立総会⇒結果発表後、秋需で実施予定)	2022総括⇒2023申請内容検討	2023総括⇒2024申請内容検討	
3月	県内協力呼び掛け...交流分科会担当	模索企画4 ライセンスメンバー募集&講習会 (S級R級/D級/一般)	模索企画5-1 S級模索企画5-1 ライセンスメンバー募集	
4月	きらめき財団申請期限 事業展開準備...事業分科会担当	春需企画 コマ地図ブルベ 学習トレジャー26 他(フットサイクリング)	春需企画 コマ地図ブルベ 学習トレジャー26 他(フットサイクリング)	
5月	審査結果発表 ⇒【Aプラン】 ⇒または【Bプラン】	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	情報集約 夏秋号編集 店頭配布	
6月	情報集約 夏秋号編集	模索企画1 目撃車さんぽ 体験調査&体験参加	模索企画2 S級模索企画5-2 ライセンスメンバー募集	
7月	店頭配布	外局企画...街道/山道/町の道/サビツグ/チョイス/架け橋	外局企画...街道/山道/町の道/サビツグ/チョイス/架け橋	
8月	(※全国協力呼び掛け)			
9月		秋需企画 コマ地図ブルベ 学習トレジャー26 他(フットサイクリング)	秋需企画 コマ地図ブルベ 学習トレジャー26 他(フットサイクリング)	
10月	情報集約 冬号編集	情報集約 冬号編集 店頭配布	情報集約 冬号編集 店頭配布	
11月	店頭配布	模索企画3 二年跨ぎ企画 (春需で情報発信) (秋需で人材交流)	模索企画3 二年跨ぎ企画 (春需で情報発信) (秋需で人材交流)	
12月				

<<サイクリングネットワークの再構築>>

第一次サイクリングブームからの忘れ物/リポート法とバカンス法/リバーズスタッフ&オウンリスク/LCMCC ⇒ ヴェロマルチメンテナンス

補足①: AプランとBプラン...前回の申請で不採択の理由が、立ち上げに向けた設立準備委員会だったので、今回は正式立ち上げが必要条件となります。しかし十分条件ではないため、可の場合の【Aプラン】と、否の場合の【Bプラン】も想定したいと思います。

◎Aプラン/予算あり

- ⇒総会/秋の企画に合わせて開催。
- ⇒フリーペーパー/予算に合った体裁を考え、夏秋号、冬号、春号を作成。 ※サイクルショップ&サイクルステーションに配布。 ※ロゴマーク広告への協賛依頼。
- ⇒模索企画・他/関連団体のトレジャーハント企画と連携して、体験調査、体験参加、そして模擬実施を行う。またライセンスメンバー募集も検討する。

◎Bプラン/予算なし

- ⇒総会/時機を見て年度内に実施。
- ⇒フリーペーパー/A3裏表版として、ロゴマーク協賛の範囲で秋号を作成。その様子を見て冬号、春号を検討。 ※有料配布を検討し、協力施設に限定配布？
- ⇒模索企画・他/関連団体のトレジャーハント企画に積極的に体験参加し、独自規格は協力ステーションや協力ショップの有無を見極めて検討。

◎二年跨ぎ企画と全国連携/助成金や行政や学校は年度で動いているが、そこには微妙なズレがある。日常利用とスポーツ利用の架け橋となる「春需でソフト」をカバーするには、それを見越した年度跨ぎ企画が必要！？ また、「先行山口」だけでは解決不能な部分があるため、自転車関連団体との情報交換は必須。

補足②: 出発地と目的地と先行山口

今回の「先行山口」の基点は「明治維新150周年後継企画」になりますが、出発地は「第一次ブームの衰退/自転車市民権獲得」であり、目的地は「春需でソフトを売る/自転車多様性共通認識化」に辿り着くことと考えます。

しかし、多くの人は、途中乗車、途中下車しかできず、繰り返されるサイクリングブームの中で、サイクリングの法的根拠の論議をする直前※注1で、ブームが止まるという現象が、『日本の実情』の底流に存在するのではと、1990年代のMTBブーム時に感じました。

その当時、諸先輩が「自転車文化」の未熟さを憂い、新参者は「乗る場所の提供」の延長にオリンピックの夢を語り、さらに行政とオーガナイザーは「屏風のトラ理論※注2」で道路利用の責任を棚上げし、その結果、ジャパンはグローバルに飲み込まれ、日本を遊ぶ「自転車」が失われてしまった！！

そのため「先行山口」では、子供の玩具から生活の足、旅の相棒、チャンピオンスポーツまでを網羅する、誰でも途中乗車途中下車が可能なタスクフォースを目指します。そして「サイクリングネットワーク再構築」の再々提案を通じて、関係者の底流は繋がっていることを確認したいと思います。

※注1: ブームの背景と法律には一定の関係が見受けられる。「第一次: もはや戦後ではない」「第二次: 東京オリンピック/スポーツ推進法」「第三次前半: 交通戦争/自転車整備法」「第三次後半: 放置自転車/自転車基本法」「MTBブーム: バブル景気/リゾート法」「平成ブーム: エコ需要・震災需要・インバウンド需要/自転車活用推進法」など。しかしどの法律も、走る場所の規約、自転車置き場の規約、自転車利用の規約と、自転車の可能性を縛る法律とも言える。

※注2: 一休さんの有名なとんち話で、将軍が、「屏風絵のトラを退治してほしい」と訴えたところ、一休さんは「では捕まえますから、トラを屏風絵から出してください」と切り返し、将軍を感服させたというお話です。